

勉強する権利 県が無料塾



沖縄の試み

1人当たりの県民所得が全国平均の7割程度の沖縄県で、貧困の連鎖を断ち切るための新たな「公助」の形が注目をされている。

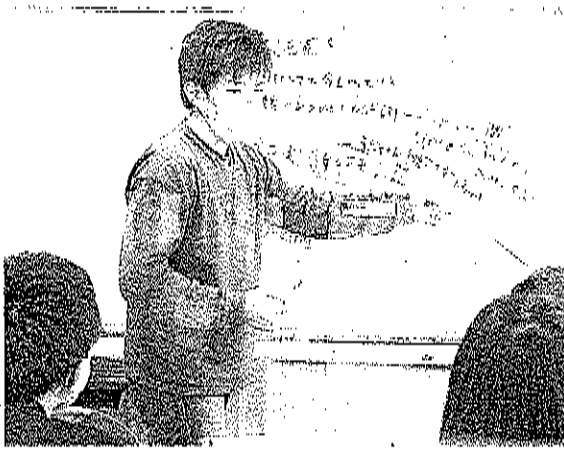
沖縄本島南部の西原町の一角、クリスマススイフを翌日に控えた夕刻、学校帰りの中学3年生が「塾」に集っていた。塾の看板はないものの、壁には「高校入試まで72日」と書かれた紙が貼られ、受験ムードを高める。講師の大学生を前に子どもたちは英語の問題に向きあっていた。

ここは、沖縄県が経済的な問題を抱える就学援助世帯向けに開く「無料塾」のひとつだ。小学1年から高校3年まで約35人が通う。教室スタッフ兼講師の平良友亮さん(27)は、「一度学校でつまづいた後、学習意欲を失ったままの子ともいる。一から教えるよう心がけている」と話す。

本人も塾の卒業生だ。机に向かう習慣がなかった中学3年生の時、役場で無料塾を知った親の勧めで通い始めた。高校に進学し、「教育に携わりたい」との目標ができた。県内の大学を卒業後、後輩たちを教える側にまわった。

沖縄県の無料塾は拡大・発展している。2012年の開始時は小中学生向けの1教室15人だったが、現在は、学習習慣の定着をめざす小中学生向けが21教室(定員800人)、大学進学をめざす高校生向けが9教室(同345人)となった。19年度からは、離隔校に挑む成績優秀な中学生に塾の授業料も支援する。高所得者だけでなく低所得者の世帯の子とも民間の塾に通えるようにし、高いレベルの教育を受ける機会を広く確保する。県の今年度の予算規模

低い所得・進学率 連鎖を断てるか



授業を受ける生徒ら。大学生から英語を学んでいた。=2021年12月23日、沖縄県西原町

は約5億円で、年々充実を図っている。背景には、沖縄が直面する厳しい環境がある。18年度の1人当たり県民所得は239万円と全国最低。高校、大学への進学率は全国ワーストだ。経済的な苦境が子どもの進学機会を奪い、さらに苦境が深まる「貧困の連鎖」をどう断ち切るか。具体的な課題をぶら出したのが、16年に県が公表した貧困実態調査の

結果だった。調査では、子どもの相対的貧困率(所得が中間の人の半分未満の割合)が全国平均の2倍近い29.9%に上ることが判明。他にも厳しい数字が並んだ。県は貧困の対策計画を策定。「就学援助の周知状況」など41の指標と数値目標を定めた。調査に携わった沖縄大の山野良一教授は「県独自の貧困率や数値目標をはじめ出したのは画期的だった。現在、珊瑚舎スコーレの

た。それまでの学校教育に欠けているものがはつきりした」と話す。貧困世帯には、親の代わりに家族の世話や家事を日常的に行う「ヤングケアラー」が少なくない。家族の世話で学校を休み、授業についていけない。結果的に学力が低下する。そんな悪循環に陥ることを防ぐ「防波堤」としての役割も無料塾が担う。

西原町の無料塾を運営するNPO法人「珊瑚舎スコーレ」の黒野人史代表は「は埼玉県の私立高校で校長を務め、退職後、沖縄でフリースクールを開いた。県から無料塾の打診を受けた当初、「行政のアウトソーシング(外注)ではないか」と感じたという。

ただ、「子どもに目をかけるには、教員が受け持つ子どもが多すぎる」と考え引き受けた。無料塾では有料の一般生も受け入れていた。調査に携わった沖縄大の山野良一教授は「県独自の貧困率や数値目標をはじめ出したのは画期的だった。現在、珊瑚舎スコーレの

子どもの可能性を未来へ 公助のあり方は

【視点】 昨年度、沖縄県の無料塾を利用した中学3年生は、ほぼ全員が高校に進学した。もちろん、必要な子ども全員に支援の手が届いたわけではない。県の担当者も「目の前に困った子がいる以上、何もやらないわけにはいかない」と語る。

縄には、米軍基地が集中する。経済を支える観光産業は、いま新型コロナウイルスの影響が暗い影を落とす。西原町の無料塾は居場所も提供するが、感染拡大に伴い年明けからオンライン授業に切り替えた。社会や時代のしわ寄せは、子どもら立場の弱い者に及ぶのが常だ。

無料塾には6カ所に計300人が通う。ここ数年、学校の紹介でやってくる子どもも増えてきた。塾の教室もそれが自分の未来へとつながるのだから」

「貧困の連鎖」は、容易に断ち切れるものではない。県は昨年11月、貧困の対策計画でうたった41指標の達成状況を公表した。生活保護世帯の大学等進学率など12指標は「達成」したが、高校中退率など「後退」した指標もある。本土復帰から今年で50年を迎える沖

無料塾が「対症療法」という声もある。ただ、今の教育現場ではカバーしきれない現実もある。大切なのは、子どもたちの可能性を未来につなぐこと。そのためどのような公助が考えられ、社会全体でセーフティネットをつくることのできるのか。沖縄の取り組みを注目したい。(相原亮)

呼びかける。「自分たちに勉強する権利があると、もっと声を出してほしい。それが自分の未来へとつながるのだから」

＝終わり